

イチゴの病害虫の発生状況（1月上旬）

1 うどんこ病

発生ほ場割合は平年並でした（図1）。一部ほ場では果実への発生も確認されています（図2）。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

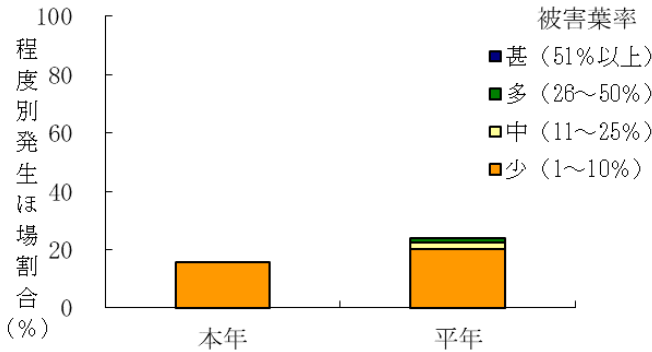


図1 うどんこ病の発生状況

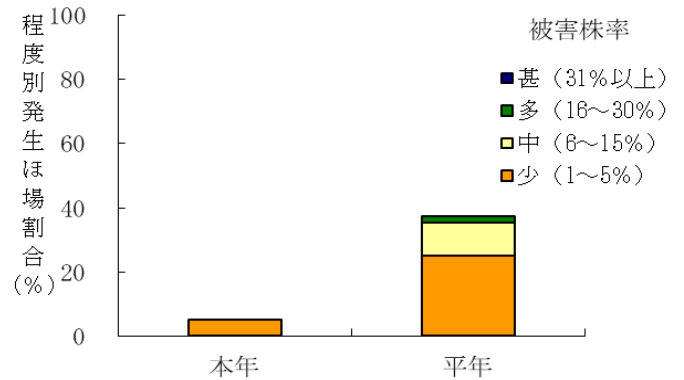


図2 うどんこ病（果実）の発生状況

2 灰色かび病

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。本病害は湿度が高いと発病しやすくなります。厳寒期は施設を閉めきることが多く、湿度が上昇するため、発生しやすくなります。り病した果実や茎葉、果梗はほ場外に持ち出して処分してください。

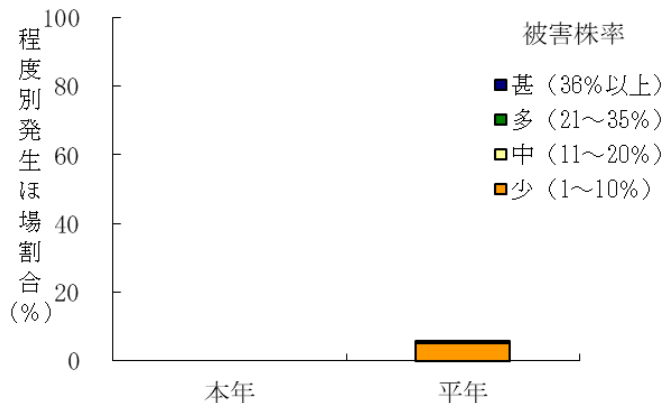


図3 灰色かび病の発生状況

3 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。寄生密度が高くなると、すす病による果実汚れが生じるので、発生を確認したら防除を実施してください。低密度時から薬剤防除を実施してください。

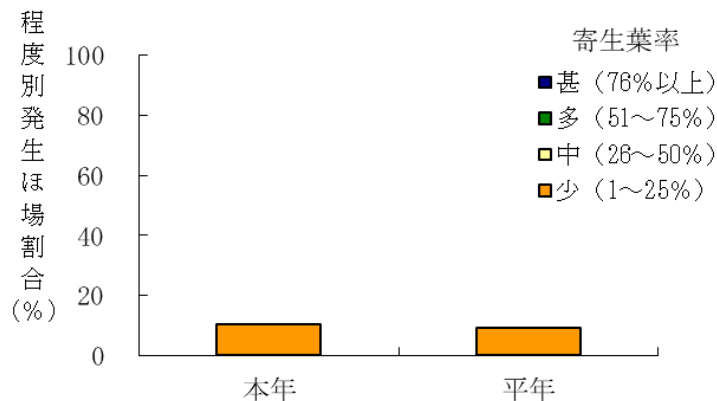


図4 アブラムシ類の発生状況

4 ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。抵抗性の発達が懸念されるので、薬剤の選択には注意してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニを放飼している場合には、天敵資材に影響の小さい薬剤を選択してください。

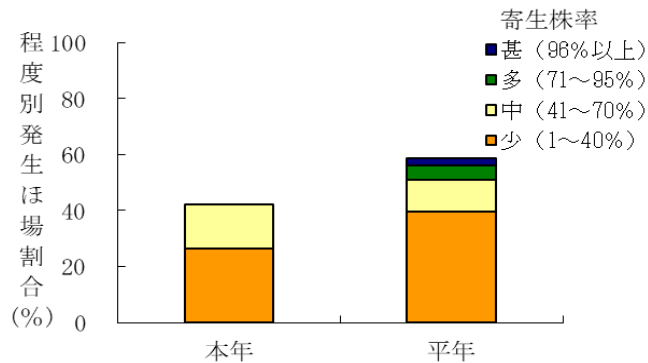


図5 ハダニ類の発生状況

5 コナジラミ類

発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図6）。寄生密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。また、ラノーテープを使用している場合でも、寄生密度が高いほ場では防除を実施してください。

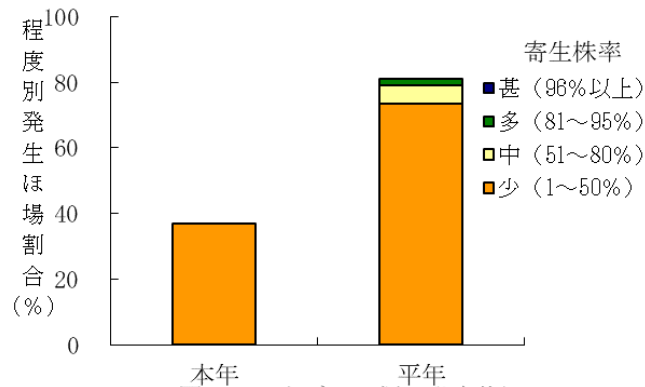


図6 コナジラミ類の発生状況

6 アザミウマ類

発生ほ場割合は平年並でした（図7）。寄生密度が高くなると被害果が発生します。開花中の花をよく観察して、寄生が確認される場合は低密度時から防除を実施してください。

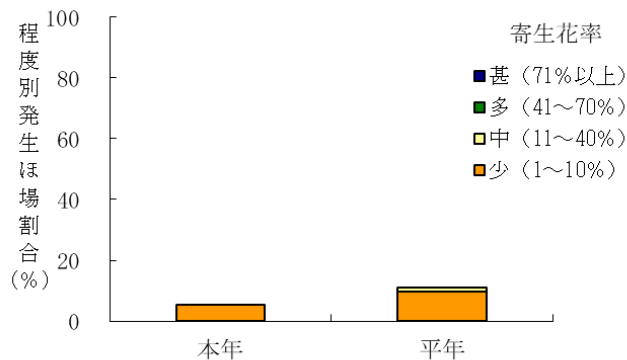


図7 アザミウマ類の発生状況

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。